

平成 24 年 №42
秋ひがん号

あきばさん

発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
でんわ047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseji.jp
http://www.shinseji.jp
郵便振替 00150-2-282968
発行人 新井寺



photographed by Reiko Matsui

あけび

オリンピックピックに学ぶ

感謝と感動 当山住持

本年は、四年に一度の世界スポーツの祭典「オリンピック競技大会」が開催されました。去る八月十二日夜（日本時間十三日早朝）、第三十回オリンピック・ロンドン大会が、大変な盛り上がりの中に、無事円成しました。日本からは、二十九三人の選手が参加し、三十八個（金七・銀十四・銅十七）のメダルを獲得しました。二〇〇四年のアテネ大会の三十七個を超える過去最多のメダル獲得数だそうです。続いて開催された第十四回夏季パラリンピック・ロンドン大会も、日本時間九月九日未明（日本時間十日）、閉会式が行なわれ、十二日間にわたる障がい者スポーツの祭典も閉幕しました。

パラリンピック発祥の地で行なわれた今大会には、史上最多となる一六四の国と地域から約四三〇〇人の選手が参加。日本選手団は、十六個（金五・銀五・銅六）のメダルを獲得し、勇気と感動を与えました。

それぞれの大会、各競技においてメダルを獲得したどの選手も、世界の「ひのき舞台」で万感の思いを込めて「感動と感謝」の言葉と心を何度も繰り返しておられました。選手の皆さんは、オリンピックに選抜され競技するまでには、厳しい環境の中で長く苦しい練習を身心ともに限界まで積み重ねてこられました。その晩に、晴れて荣誉あるメダルを獲得されたわけです。そのことに、感無量で感動し、さらに万難を排して支えてくださったご家族やコーチ、あらゆる方々への感謝の気持ちを表されていました。

この感動と感謝報恩の世界は、私共仏教の世界にも相通じるものがあります。私共の「生かされているいのち」は、すべてご先祖様からの尊いいのちです。お彼岸会にあたり、このご先祖様からの尊い命のご縁、御恩を新たに再認識され、ご先祖様への感謝の報恩行に親しくご精進ください。

合掌

あきばさんじゃくぼうだいごんげん

秋葉三尺坊大権現様火防大祭

おまいりのすすめ



新井寺の山門を入ってすぐ右側の石段を上ると、赤い天狗の葉っぱが描かれた扉のお堂「御真殿（ごしんでん）」があります。この「御真殿」には、火防せ（ひぶせ）の神さま、「秋葉三尺坊大権現（あきばさんじゃくぼうだいごんげん）」様がお祀りされています。この秋葉三尺坊大権現様は、新井寺とゆかりの深い「御経塚（おきょうづか）・新井寺の裏門を出てバイパスを渡り、路地を

入るとまばらな木立のなかにある 小さな築山のような「塚」に残されている『法華経塚誌（ほけきょうつかし）』によると、いまから約三百年前、新井寺の四代目の住職 慈潭珠悦（じたんしゅえつ）大和尚様がお祀りされたのがはじめとされています。当時、凶作や飢饉が相次ぎ、さらには疫病も流行して、人びとの心は「麻のごとくに」乱れ、世相は、「混乱の極みに達していた」といいます。そのことを案じた慈潭和尚様が、観音菩薩様の化身（けしん・観音さまが仮にあらわしたお姿）である秋葉三尺坊大権現様を遠州（現在の静岡県）の秋葉總本殿可睡斎（あきはそうほんでんかすいさい）からお迎えされ、人びとの安寧を祈願されたと、伝えられています。

その後、先代住職が、昭和四十一（一九二六）年に、現在の御真殿を新築建立されました。以後、寒さとともに火

を使う機会の多くなる初冬十一月の、観音さまのご縁日である十八日、十一月十八日に、新井寺の火防大祭が勤められてきました。新井寺の檀信徒や秋葉講の皆様、町内近隣、有縁無縁の皆様方の家内安全、火災消除、諸難消滅、心願成就、諸縁如意吉祥（すべてのしあわせ）を祈念する「ご祈禱」を行ない、「火の用心」のお札をお授けしています。

新井寺 火防大祭

十一月十八日（日）

ご祈禱をお受けください

◎ご祈禱の時間

午前部 十時半と十一時半

午後部 一時半と二時半

○ご祈禱の時間は多少前後します

あらかじめ、ご了承願います

○どなたでもおまいりいただけます

○「火の用心」のお札をおわけしています

○古いお札は「おたき上げ」いたしますので、お寺へお持ちください

○ご不明な点は、お寺へお気軽におたずねください

秋葉大権現様の教え

「もの」と「心」の

火の用心

秋葉三尺坊大権現様の教えは、
家焼くな
心を焼くな朝夕に

秋葉三尺坊の教え

まもり祈りて

と伝えられています。



おまいりの際は どうぞ ご祈禱を
お受けください

我われの日常生活において、「火」は、
欠かすことができません。けれども、ひ
とたび使い方をあやまると、家財や家宝
などすべてを焼きつくし、「いのち」ま
でも奪いかねない、とても恐ろしい
「火」でもあります。また、「火」は、
人間の心のなかにもあるといわれます。
「鬼やほとけ、地獄・極楽はすべ
て我われの心のなかにある」と。「心
の火」のコントロール次第で、我われの
心は、鬼にもほとけにも、地獄にも極楽
にもなるんだということです。すなわち、
「心の火」を、如何に正しく修養し、コ
ントロールするかが、人生をしあわせに
も、そうでない方向にも導くことにつな
がっているのです。
新井寺の火防大祭は、どなたさまでも
おまいりいただけます。「もの」の火、
「心」の火の「火の用心」のため、どう
ぞ、おまいりいただき、物心両面にわた
る秋葉三尺坊大権現様のご加護をうけ
られますよう、ご案内いたします。



ホームページが

リニューアルします

平成十八年の秋に開設した新井寺のホ
ームページをリニューアルすることに
なりました。年内の完成を目標に準備を進
めています。「やさしく、見やすく、親切
に」をコンセプトに、おてらのこと・行事
のこと・坐禅会や写経会のこと・・・、お
てらをみなさまの身近に感じていただい
けるような情報発信に努めてまいりたいと
思います。どうぞ、ご利用ください。

<http://www.shinseiji.jp>



リニューアルされるトップページ

「花屋秋葉山」から

みなさまへ

秋は、「菊と収穫(実)」の季節です。秋彼岸は、スプレー菊ポリarium満点の花束(写真①)と赤い実のはいつた花束(写真②)をご用意しました。



写真①



写真②

お花は、なるべく下の葉っぱを取り除き、葉っぱが水につからないようにすると、仏様にお花を長く楽しんでいただけます。また、ご家庭では毎日水をかえ、ときどき茎を一センチ程度斜めにカットすると、お花が元気になります。氷が入った水にいれるのも効果的です。そして、枯れたお花は、元気なお花に悪影響をあたえる「ガス」を発生させますので、見つけたら「だだちに花束の中から取り除くこと」をおすすめします。ぜひ、お試しください。おてらでは、常時、お花をご用意しております。ご法事や毎月のご命日、一日・一五日などのお花も、お気軽にご相談ください。特に、秋彼岸は九月十九日から二十六日まで、年末年始は十二月二十九日から一月三日まで、「おひがん」・「年末年始」特別版として販売いたします。お墓まいりに、ご自宅に、どうぞご利用ください。

みなさまのご利用をお待ちしております。

花屋 秋葉山 店主しるす

編集後記

竟日通夜(ひねもすよもすがら)、物来って心に在り、心帰して物に在らしめ、一等に佗(た)と精勤弁道(しょうごんべんどう)す。



「充実」ということばがあります。辞書には、「中身がいっぱいに充ちていること」という説明がされています。たとえば、わたしは「まあやればよい」というような気持ちでささっと仕上げ、掃除を済ませたことや四角い部屋をまるく掃除をしてしまった後は、何か大事なものを忘れてしまった気が持ちになります。ひとつひとつを「ていねい」に行ない、自分の「心」をおくということ、それが「充実」ということにながっていくのだと思います。どんなに小さなことも、決しておろそかにしない。大切に接し、「ていねい」に勤め上げていく。それが、自分の心をそのもの・ことに充たし、自分の心が、そのもの・ことに充たされる、「充実」ということなのだと思います。このことが、道元禅師様が教えてくださっていることなのだと思います。

秋暑きびしき毎日、どうぞご自愛ください。

編集 小公子合掌